

紅
七冊四
第五

七
四
五
六



古の字曰すらふ
 新にすて茶

格うのま

たにまのま

杉本
 抄

頭書増補訓蒙圖彙卷之十二

畜獸

け部子ハ山野ハ湖子也
 とろくめい物と記す



麒麟



騊駼



犀

○犀ハ毛豕の足
 蹄子三甲わり頭
 馬のどし三角わり
 鼻上額上頭上

犀



貊

○貊ハ熊ハにら
 象の鼻犀の目牛
 の尾虎の足銅鉄
 の皮竹の毛

貊



○麒麟ハ仁獸
 麋身牛尾一角
 あり牡と麒とい
 い此と麟といふ
 生虫とすん生茶
 と踐く聖人乃
 世ハハ川
 騊駼
 ○騊駼ハ尾如ク
 己ハ仁獸ハ白鹿
 あり

○獬豸ハ麻の
 て一角あり一名
 羊の角を食す
 曲直を正す
 陶獄と云ふ所
 の罪を治す
 獬豸にこれ色
 獅子
 ○獅子ハ爪
 里と云ふ虎豹を食
 けと云ふのあり一
 名後狻猊と云
 狻猊ハ爪を食す
 獅子ハ爪を食す
 狻猊ハ爪を食す
 獬豸ハ爪を食す
 狼ハ爪を食す
 虎ハ爪を食す
 豹ハ爪を食す
 鹿ハ爪を食す
 麋ハ爪を食す
 象ハ爪を食す
 熊ハ爪を食す
 猪ハ爪を食す

獬豸



獅子



狻猊



狼



虎



豹



○熊ハ雄雌あり
 白脂あり俗ニ熊脂
 云ふ熊踏く所の
 云々云々

熊



○象ハ大獸あり鼻
 牙あり三年に一
 たび乳を牙と
 しててうらぐ
 子つら

象



○猪ハ豚と云ふ
 唐人云くやして
 常の食とす

豚



○鹿ハ馬身羊尾
 頭長く脚長壯
 角あり夏至まか
 い北角あり水
 けて子をむく
 のんで鹿と云
 鹿骨と云ふ鹿
 とわさめ鹿の
 骨の益あり

鹿



○麋ハ鹿の子
 鹿の骨の益あり

麋



○猪ハ猪鬣の惣
 名あり野猪鬣
 猪鬣と云ふ不潔
 と云ふ猪鬣と
 猪鬣と云ふ猪
 鬣と云ふ猪鬣

猪



○馬の必氣と云
けく生か火へ本
と生さるるあり
○駟の馬二匹
かつと駒と云又
五又次と云駒と
駟の馬の純
黒さめくろ
とぬあり



○駟の背に肉鞍
わめて峰のどし
多た頭多た脚
わりその毛温
厚けり狐の毛
らり燦々夜深
○狐の小黄
に鼻尖
あり狐百歳
てそ小半を礼
むけりあり
○狸の虎狸の猫
狸の猫狸の鼻
口方々と虎狸
○駟の耳かた
いありうさる
とら



○牛の田と耕
畜ありあり
牛と殺して祭
にこの野牛
水牛わり柱
あゆりと大牢
り
○犢の鼻根
にさゆ犢鼻



○狸の虎狸の猫
狸の猫狸の鼻
口方々と虎狸
○駟の耳かた
いありうさる
とら



猿さる

○猿さるハ馬うまノこゝろニ
猿さるノこゝろニ
樹きノこゝろニ
攀のぼルこゝろ



猿さる

○猿さるハこゝろニ
行ゆクこゝろ

○鹿しかハこゝろニ
角つるぎノこゝろニ
角つるぎノこゝろニ
角つるぎノこゝろニ



鹿しか

○鹿しかハこゝろニ
角つるぎノこゝろニ
角つるぎノこゝろニ
角つるぎノこゝろニ



鹿しか

○鹿しかハこゝろニ
角つるぎノこゝろニ
角つるぎノこゝろニ
角つるぎノこゝろニ



鹿しか

○鹿しかハこゝろニ
角つるぎノこゝろニ
角つるぎノこゝろニ
角つるぎノこゝろニ



鹿しか

○鹿しかハこゝろニ
角つるぎノこゝろニ
角つるぎノこゝろニ
角つるぎノこゝろニ



貉くさび

○貉くさびハこゝろニ
毛けノこゝろニ
毛けノこゝろニ
毛けノこゝろニ



貉くさび

○猫ねこハこゝろニ
爪つめノこゝろニ
爪つめノこゝろニ
爪つめノこゝろニ



猫ねこ

○羊ひつハこゝろニ
毛けノこゝろニ
毛けノこゝろニ
毛けノこゝろニ



羊ひつ

○犬いぬハこゝろニ
毛けノこゝろニ
毛けノこゝろニ
毛けノこゝろニ



犬いぬ

○鼠ねずみハこゝろニ
毛けノこゝろニ
毛けノこゝろニ
毛けノこゝろニ



鼠ねずみ

○鼠ねずみハこゝろニ
毛けノこゝろニ
毛けノこゝろニ
毛けノこゝろニ



鬼おに 鬼の首
○鬼の首おにのくび 鬼の首
くくくく 鬼の首
年平毒ねんへいどく 鬼の首
中ちゆう 鬼の首
かきあひかきあひ 鬼の首

獺たつ

○獺たつ 水中にせし
四足しそく 短く交
静しず 魚と
うぬうぬ 水気脹満
とと 多食へる

貂じよう 角のさか
○貂じよう 角のさか
大だい 黄黒色
かか 毛よく
ああ 帽子領
ひひ てきぎ半

鼬すい 毛のう
○鼬すい 毛のう
多た 尾大あり
黄わう てあり
鼠そ と

駿しゆん 毛のう
○駿しゆん 毛のう
馬ば の頭
ふふ 毛のう
うう 毛のう
繫けい 鬚鬣あり
ひひ 毛のう

角かく つ
○角かく つ
水すい 牛の角
角かく つ
秋あき 分



鼯ぶ 鼠のちん
○鼯ぶ 鼠のちん
鼠ねずみ のちん
痛いた む
鼯ぶ 鼠のちん

鼯ぶ 鼠のちん
○鼯ぶ 鼠のちん
鼠ねずみ のちん
痛いた む
鼯ぶ 鼠のちん

鼯ぶ 鼠のちん
○鼯ぶ 鼠のちん
鼠ねずみ のちん
痛いた む
鼯ぶ 鼠のちん

鼯ぶ 鼠のちん
○鼯ぶ 鼠のちん
鼠ねずみ のちん
痛いた む
鼯ぶ 鼠のちん

蹄ひつち
○蹄ひつち
蹄ひつち
蹄ひつち
蹄ひつち

牛角ぎうかく
○牛角ぎうかく
水すい 牛の角
角かく つ
角かく つ



新

新 野のあつ大
あつとめん象の
牙は犬よりつる
物よりつる猪の牙
いよりて物を滑
にす

獾犬

○濃大の毛は
老掩獅犬は
ひのぬき

獒犬

○獒大の犬大
あつと四尺ありと
獒といふは子
と唐犬といふ

野猪

○野猪の腹は
脚は毛褐色
味は毒の癩癩
と油は肌膚を補
と

山猪

○山猪の項脊に
棘鼠ありと一
足より筋の皮
船に矢を射る

海獺

○海獺の獺子
て犬の皮の毛水
はに皮あり毛水
つる濡る



獾犬



獒犬



野猪



山猪

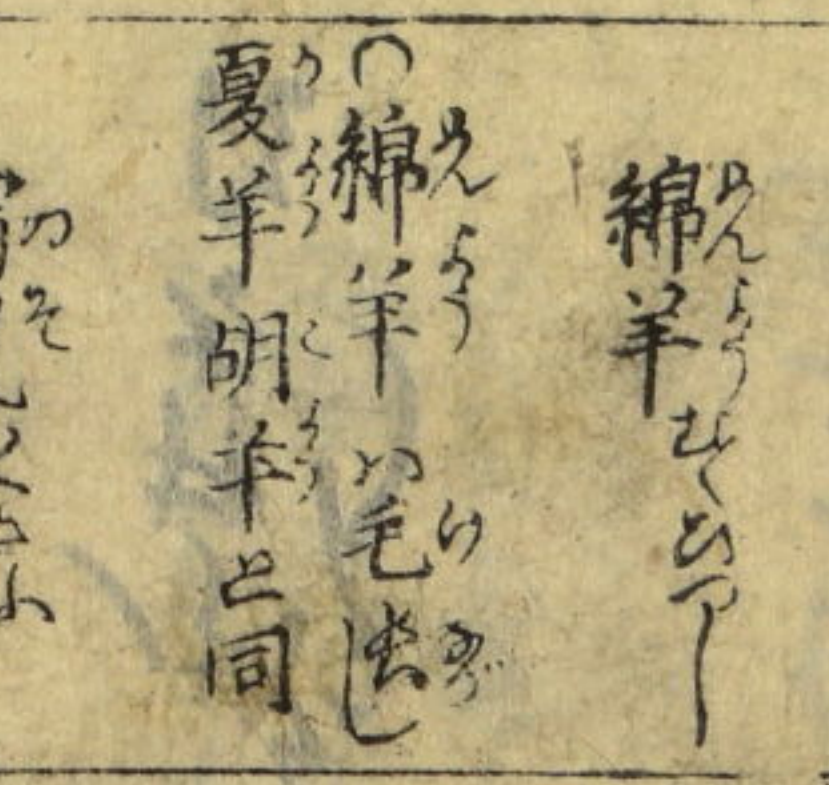


海獺



○水牛の色は
腹大頭より状
猪よりそれと
その清湯あり
脚胃と美の鹿を
たごの木腫を注

綿羊



蠟鼠

○蠟鼠の尾は
脚短く尾長
あつと白し足
人と守山谷
野と生を同

靈猫

○靈猫の南海の
山谷子生とく
り狸のし陰の
麝のし

海狗

○海狗の臍腺
より狐にして尾
色は身は青白毛
わり又青と黒
を臍の脾腎の
極正依を

猩

○猩の黄毛は
多自耳の家のし
人面人足酒を
血をて注

水牛



綿羊



蠟鼠



靈猫



海狗



猩



○辨、人のじ
長層及踵髪と
被りて進きて人
と合ふ人として笑

性、く
まじ物ありまは
あく自然耳を
人、くくく
多性、くくく
これとくくく
くくく

性、く
り、く、く、く、く
性、く、く、く、く
性、く、く、く、く
性、く、く、く、く



性、く
く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く

性、く
く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く

性、く
く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く



頭書増補訓蒙圖彙卷之十三

禽鳥
け部、く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く

○鳳凰、初五来と
その、く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く



○鸚鵡、白青又五
色あり、く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く



○孔雀、大さ鷹の
く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く

○杜鵑、鶉の、く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く
く、く、く、く、く、く



鶺鴒 けいりやう
鶺鴒の首尾を
一行とてお夜ぎ
一石離渠

啄木 しやくぼく
啄木 しやくぼく

鶺鴒 けいりやう
鶺鴒の首尾を
一行とてお夜ぎ
一石離渠

鶺鴒 けいりやう
鶺鴒 けいりやう

鶺鴒 けいりやう
鶺鴒の首尾を
一行とてお夜ぎ
一石離渠

鶺鴒 けいりやう
鶺鴒 けいりやう



啄木 しやくぼく
啄木 しやくぼく



鶺鴒 けいりやう
鶺鴒 けいりやう



蝙蝠 ひょうぶ
蝙蝠 ひょうぶ



鶺鴒 けいりやう
鶺鴒 けいりやう



鶺鴒 けいりやう
鶺鴒 けいりやう



鶺鴒 けいりやう
鶺鴒の首尾を
一行とてお夜ぎ
一石離渠

鶺鴒 けいりやう
鶺鴒 けいりやう

鶺鴒 けいりやう
鶺鴒の首尾を
一行とてお夜ぎ
一石離渠

鶺鴒 けいりやう
鶺鴒 けいりやう

鶺鴒 けいりやう
鶺鴒の首尾を
一行とてお夜ぎ
一石離渠

鶺鴒 けいりやう
鶺鴒 けいりやう



鶺鴒 けいりやう
鶺鴒 けいりやう



鶺鴒 けいりやう
鶺鴒 けいりやう



鶺鴒 けいりやう
鶺鴒 けいりやう



鶺鴒 けいりやう
鶺鴒 けいりやう



鶺鴒 けいりやう
鶺鴒 けいりやう



○鷺の鷹の如く
しつゝ一尾の船に
はりて鷺も同
黒焼のてしつ
と俗に

鷺

○鷺の鷹の如く
船のり住ま
夜もいそ伏も
多、色笑をじ

鷺

○鷺の鷹の如く
ありてあらく
と味のまき奉
か人の気かま
し、磁肌と利も

鷺



鷺



鷺



鷺



鷺



鷺



○鷺の鷹の如く
しつゝ一尾の船に
はりて鷺も同
黒焼のてしつ
と俗に

○鷺の鷹の如く
しつゝ一尾の船に
はりて鷺も同
黒焼のてしつ
と俗に

鷺

○鷺の鷹の如く
しつゝ一尾の船に
はりて鷺も同
黒焼のてしつ
と俗に

鷺

○鷺の鷹の如く
しつゝ一尾の船に
はりて鷺も同
黒焼のてしつ
と俗に

鷺



鷺



鷺



鷺



鷺



鷺



○鷺の頸かき脚

長く味かた三

すくみ長毛わり

糸のし册とま

急と補ふ

○鷺の家よふ

胸のり花とわ

つん大異毒あり

凡屋寒熱不建

鷺

○鷺の毛黄色

尾黒色まどる

春のりや色換

とわわらぬ

○燕の大さ雀の

屋宇に下り巣と

つる成じれぬと

さうとあり

鳩

○鳩の斑鳩のつら

目とぬに益

益

○鳩の家よふ

益

益

益

益

首言家十三



○鷺の大さ

尾とりの嘴

淋病消渴と

急と補ふ

○鷺の籠大

いさぐらうと

黒い丸かして

病家味勞疾と

鳥

○鳥の籠大

物と生れて母

と六十日巣

て母と哺と六十日

よめて慈鳥と

○鷺の大さ

雄の足

雌の足

益と補ふ

○鷺の大さ

歳暮に

益

○鷺の籠大

色わと天

ふんとす時

泥塗のふん

虚と補ふ



青鳩アヲトビ

○青鳩の鳩のど
くたして緑褐の
色に見え等と云
じ虚と補血と活

鳩鳩アヲトビ

○鳩鳩の大さ鳩の
く色黄へ三月
穀雨のち候てく
農とくいふと
食されればと安を

○雀のアヲトビの類
の目い微同し
性を淫れん

陽と壯の氣とほ
腰練とわくつた
とるめ血崩等下

鴟アヲトビ

○鴟の雀のく
一名蒿雀

鴟アヲトビ

○鴟の雀のく
黄へ木上にけ
く魚とりの食

鴟アヲトビ

○鳩の大さ鳩の
く色黄へ三月
穀雨のち候てく
農とくいふと
食されればと安を

青鳩アヲトビ



鳩鳩アヲトビ



雀アヲトビ



鴟アヲトビ



鴟アヲトビ



鳩アヲトビ



○鳩の夏至よか
と冬に至るたか
伯勞とをり小兒
のいふとくそ死な
鳩の踏枝わくろん

雛アヲトビ

○雛の鮮色と
く虚をきき
ひ中をわくめ血と
とら婦人の崩は

雉アヲトビ

○雉の雄の交来を
て尾をく雉の文
暗して尾をく
九月より十一月を
くく

卵雛アヲトビ

○卵雛の法名乃
くくあり雛卵の
五臓を安し水
とわくめ小兒と

雛アヲトビ

○雛の法名の巢
くくあり雛卵の
とらくめ雛と
く母をくめ雛の
とと鼓といふ

嘴アヲトビ

○嘴の多のくらく
くあり雛卵又
ハ又くらくく

鳩アヲトビ



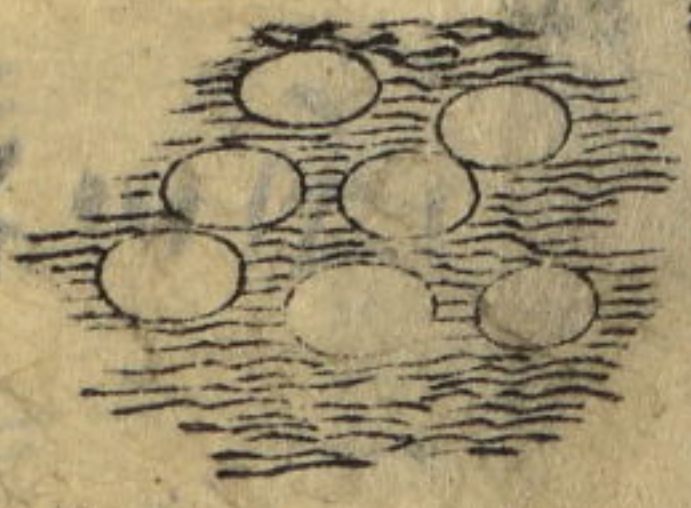
雛アヲトビ



雉アヲトビ



卵雛アヲトビ



雛アヲトビ



嘴アヲトビ



羽と
 羽のこゝろ
 同翻を
 根莖あり
 短羽あり
 山雞

○山雞の維のり
 火雞
 火雞の維のり
 火雞の維のり
 火雞の維のり

○火雞の維のり
 火雞の維のり
 火雞の維のり
 火雞の維のり

○火雞の維のり
 火雞の維のり
 火雞の維のり
 火雞の維のり

○火雞の維のり
 火雞の維のり
 火雞の維のり
 火雞の維のり

○火雞の維のり
 火雞の維のり
 火雞の維のり
 火雞の維のり



翼つゞき
 翼のつゞき
 翼のつゞき
 翼のつゞき

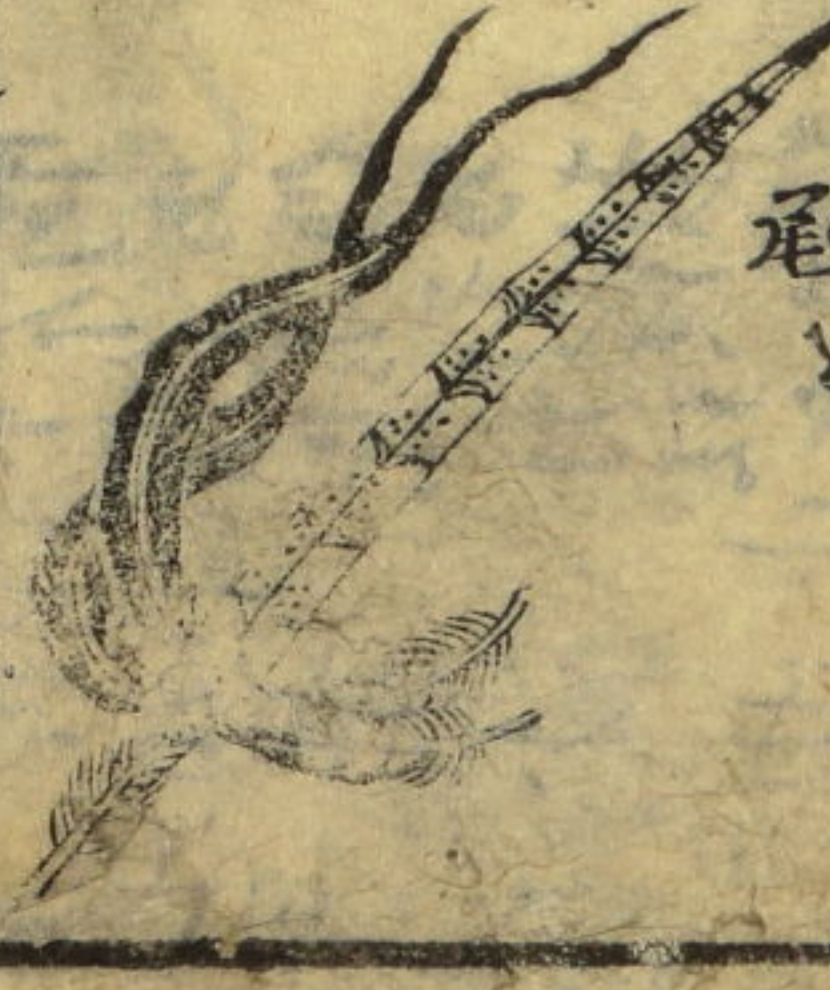
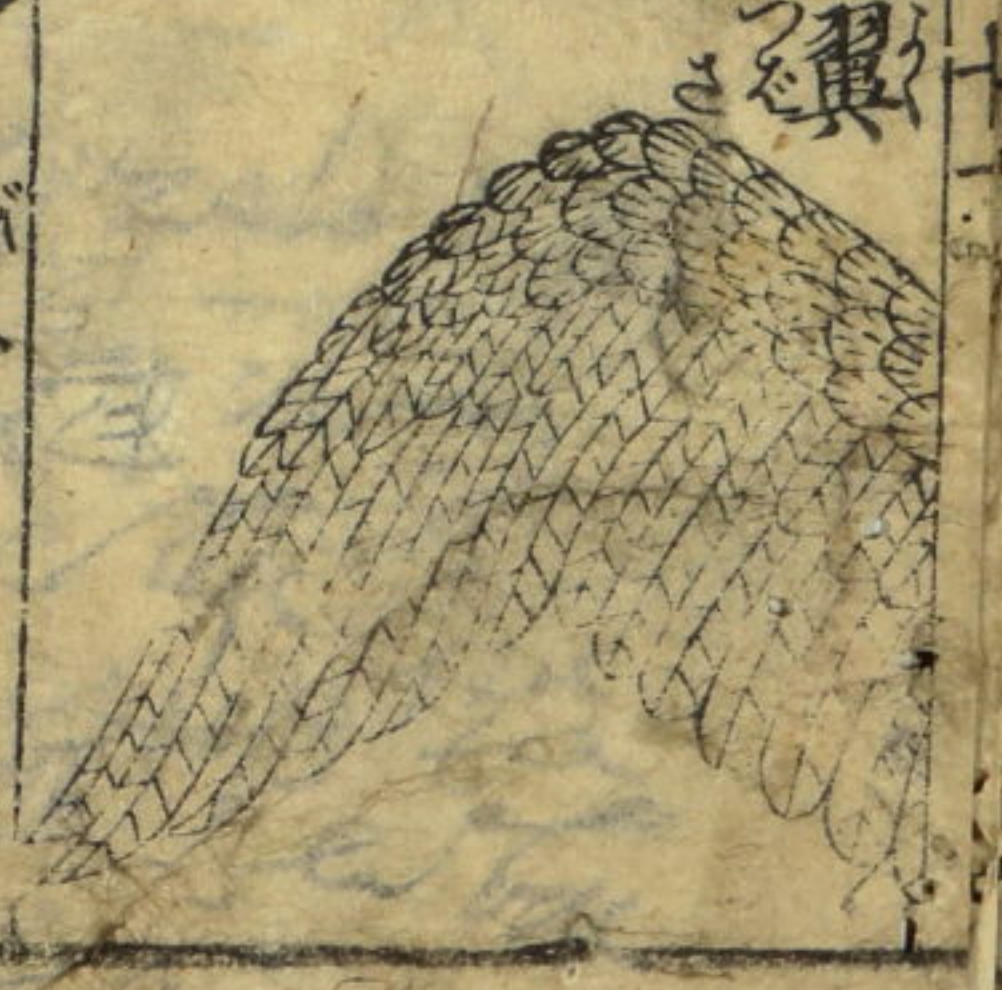
○鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり

○鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり

○鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり

○鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり

○鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり
 鴨雞の尾のり



紅鶴一名の
刺踏るといふ俗子
なるといふ

角鴞

○角鴞の頭目指
のく毛角兩耳
あり直伏し夜出
し急老人のくく
呼ぶとく後笑はじ

鳥鳳

○鳥鳳一名
玉母

○山鶻の鶻の
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく

練鶻

○練鶻の鶻の
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく

鳩鶻

○鳩鶻の木多
大と見のくく頂
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく

紅鶴



角鴞



鳥鳳



山鶻



練鶻



鳩鶻



○雲雀一名高
雀と云雀かて清
黒色あり高の間
はを陽とあこし
精髓とあこし

吐綬雞

○吐綬雞の大家
鶏はく頭雞小
はく羽は黒黄
あり項は囊をて
肉綬とあこし

翠雀

○翠雀一名
翠鳥

畫眉

○畫眉の鶻
あり

比狨鳥

○比狨鳥の雌雄
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく
くくくくくく

蠟嘴

○蠟嘴一名竊
脂



吐綬雞



翠鳥



畫眉



比狨鳥



蠟嘴



鸚鵡くわんぐわん

鸚鵡くわんぐわん 鳴鳥也

鸚鵡くわんぐわん の羽は青と赤とあり
舌は人の舌の如し
剪は人言を能く



雀すずめ

雀すずめ

雀すずめ の羽は青と赤とあり
舌は人の舌の如し
剪は人言を能く



雀すずめ

雀すずめ

雀すずめ の羽は青と赤とあり
舌は人の舌の如し
剪は人言を能く



鶯うい

鶯うい

鶯うい の羽は青と赤とあり
舌は人の舌の如し
剪は人言を能く



鶯うい

鶯うい

鶯うい の羽は青と赤とあり
舌は人の舌の如し
剪は人言を能く



鶯うい

鶯うい

鶯うい の羽は青と赤とあり
舌は人の舌の如し
剪は人言を能く



鸞らん

鸞らん

鸞らん の羽は青と赤とあり
舌は人の舌の如し
剪は人言を能く



鸞らん

鸞らん

鸞らん の羽は青と赤とあり
舌は人の舌の如し
剪は人言を能く



鸞らん

鸞らん

鸞らん の羽は青と赤とあり
舌は人の舌の如し
剪は人言を能く



鸞らん

鸞らん

鸞らん の羽は青と赤とあり
舌は人の舌の如し
剪は人言を能く



鸞らん

鸞らん

鸞らん の羽は青と赤とあり
舌は人の舌の如し
剪は人言を能く



鸞らん

鸞らん

鸞らん の羽は青と赤とあり
舌は人の舌の如し
剪は人言を能く



鷹

鷹の文来あり
後れ下あり
つたをあり

疎斯

まろし灌題と
いふ山子疎斯云
まあり進のじ
人の面あり人
まろしをあり
まろしをあり

鸛

まろし大行
まろしをあり
まろしをあり
まろしをあり
まろしをあり

鷹



疎斯



鸛



鷹

鷹の文来あり
後れ下あり
つたをあり

數斯

まろし單塗の
まろし教斯と
まろしをあり
まろしをあり
まろしをあり

鸛

まろし崇吾の
まろしをあり
まろしをあり
まろしをあり
まろしをあり

鷹



數斯



鸛



頭書增補訓蒙圖彙卷之十四

龍魚

け部
の龍蛇魚鱗とあり

蛟

蛟はけ一丈余
蛇もて四足く
いふ、頭がく
せかの青もてん
と錦の

龍

龍の鱗虫の長
ありせある八十一
の鱗あり九の
をそありあり
いふ下に珠を



蛟

蛟は蛟に
角あり、青あり
黄あり

鱸

鱸は長三丈
三行あり、鱗あり
三行あり、鱗あり
三行あり、鱗あり



鯪いしのいしらいし鯪いしの
 陵りやう子し穴あなして居ゐる
 四よ足あしあり首くび角かくの
 尾おし鱗りん二に角かく
 鯪いし

鯪いしのいし棘せき鱗りん魚ぎよ
 木き鱗りんと消しょう
 小せう便べんと利り
 痔しと治ちし上う気き
 虚きょ勞らうと治ちす

黄わう槽さうのい今いまのいお
 とままのいあり



鯪いしのいし山さん甲かう

鯪いし

黄わう槽さうのい今いまのいお
 とままのいあり

鳥とり類るいのい今いまのいお
 とままのいあり



鳥とり類るい

老らう魚ぎよのい今いまのいお
 とままのいあり



老らう魚ぎよ

鱸ろのい五ご臟ざうと益えき
 湯ゆ骨こつと和わ水すい気き
 と逐しゆ々々と飲いんむ
 痲ま痺しびをいれいぬぬるる



鱸ろ

鯨じやうのい海かい中ちゆうにい大だい
 魚ぎよのい浪なみと鼓こと
 雷らいとい沫もくといのい
 ていぬぬといのい雄ゆうとい
 鯨じやうのい唯ただとい鯨じやうとい

鯪いしのい鬣えつはいてい脚あし
 のい尾おしありい尾おし小せう
 と天てん余よ味あじ義ぎありい
 皮かわのい刀たうれいるい化け

鯪いしのい蜥せき蜴ぎはいてい
 大だいのい水すいよりいるい
 てい人にんのいのいのいうう
 四し足あしありい鱸ろ同どう



鯨じやう

鯪いし

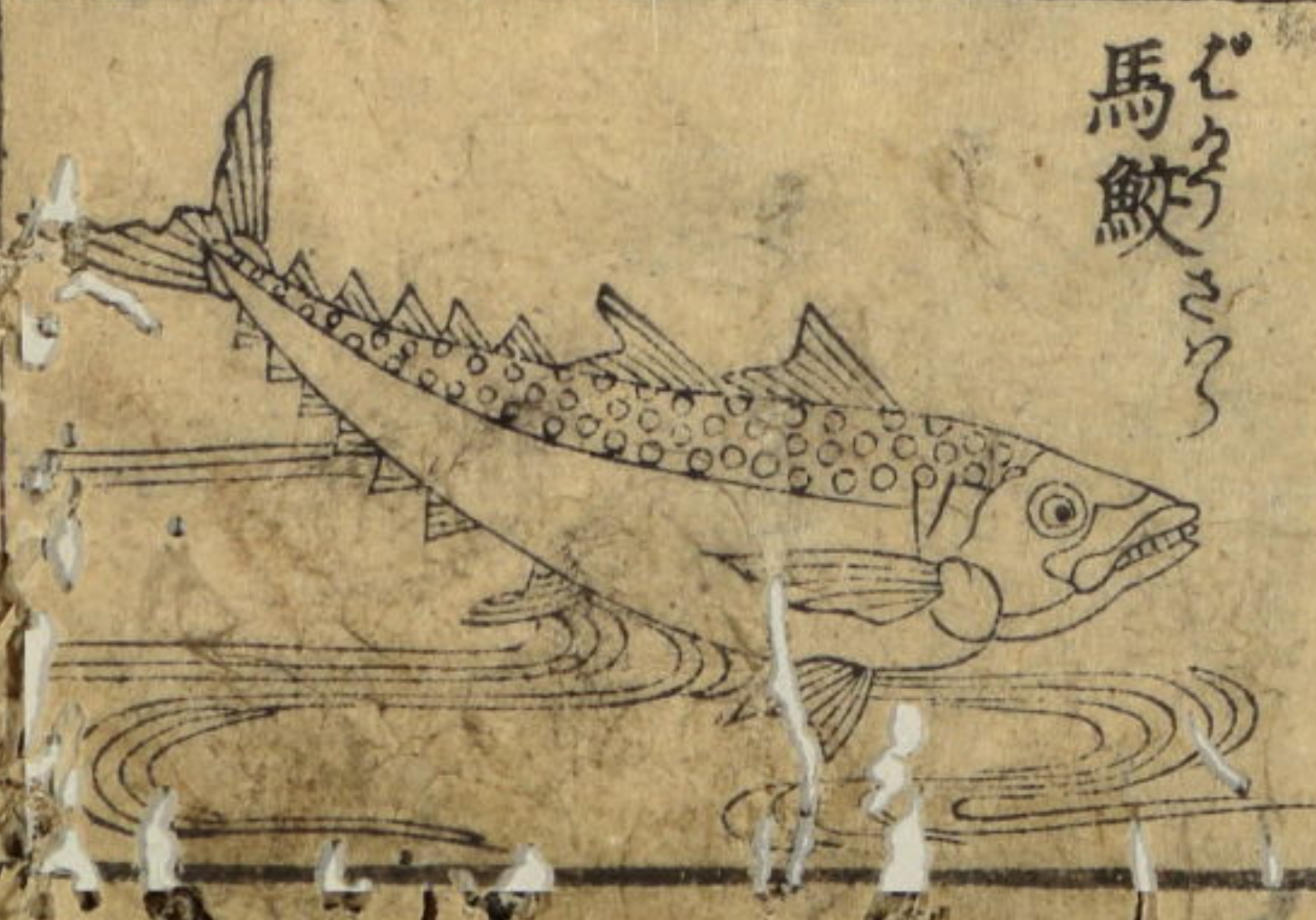
鯪いし

鯪いしのい一いつ名なとい色いろ
 痛いた色いろといのい鯪いし
 つらつらのい水すいありい



鯪いし

馬ば鯪いしのい一いつ名なとい
 章しやう鯪いしといのい青せいありい
 といのい青せいありい
 章しやう鯪いし擺はい錫せき同どう



馬ば鯪いし

○鯽ニギハヤヒの小鯽コニギハヤヒを
 煮くわし五味
 に合して煮く
 へい虚羸とつと
 ども中とわすめ
 気とくく下痢
 腸痔とまじ蕪
 に合してあめ
 とあてい胃よ
 りとく食をさ
 ぶらとつとさ
 中とそつと入
 とまを



鯽ニギハヤヒ

○鯽ニギハヤヒの水腫スイジュと
 治すはと利
 下血ゲツと
 のいこは葱ネギと
 同一とて合



鯽ニギハヤヒ

○鯽ニギハヤヒの疫病エキビョウ
 と治すはと利
 虫ととらも
 又鯽ニギハヤヒと色赤



鯽ニギハヤヒ

○年魚トシイサの煮て
 合とれ八憂ヤツと
 胃とわすめ
 冷海とま



年魚トシイサ 銀口魚ギンクチイサ 同

○鯽ニギハヤヒの湿痺シツヒに
 煮くわし五味
 に合して煮く
 へい虚羸とつと
 ども中とわすめ
 気とくく下痢
 腸痔とまじ蕪
 に合してあめ
 とあてい胃よ
 りとく食をさ
 ぶらとつとさ
 中とそつと入
 とまを



鯽ニギハヤヒ

○鯽ニギハヤヒの鮮センは
 と治すはと利
 下血ゲツと
 のいこは葱ネギと
 同一とて合



鯽ニギハヤヒ

○黄鰮ワウギョの煮て
 合とれ八憂ヤツと
 胃とわすめ
 冷海とま



黄鰮ワウギョ

○江猪エゾの肺ハネと
 合とれ八憂ヤツと
 胃とわすめ
 冷海とま



江猪エゾ

鳥賊の氣を
志とつゝ
人に益を月
經と通じ

鮪

○鮪の虚勞とか
その油をとり
てやげんありて
妖あり

鮪

○鮪の鮮子に
あく眼あり
又鮪とあらく
赤眼魚とあらく

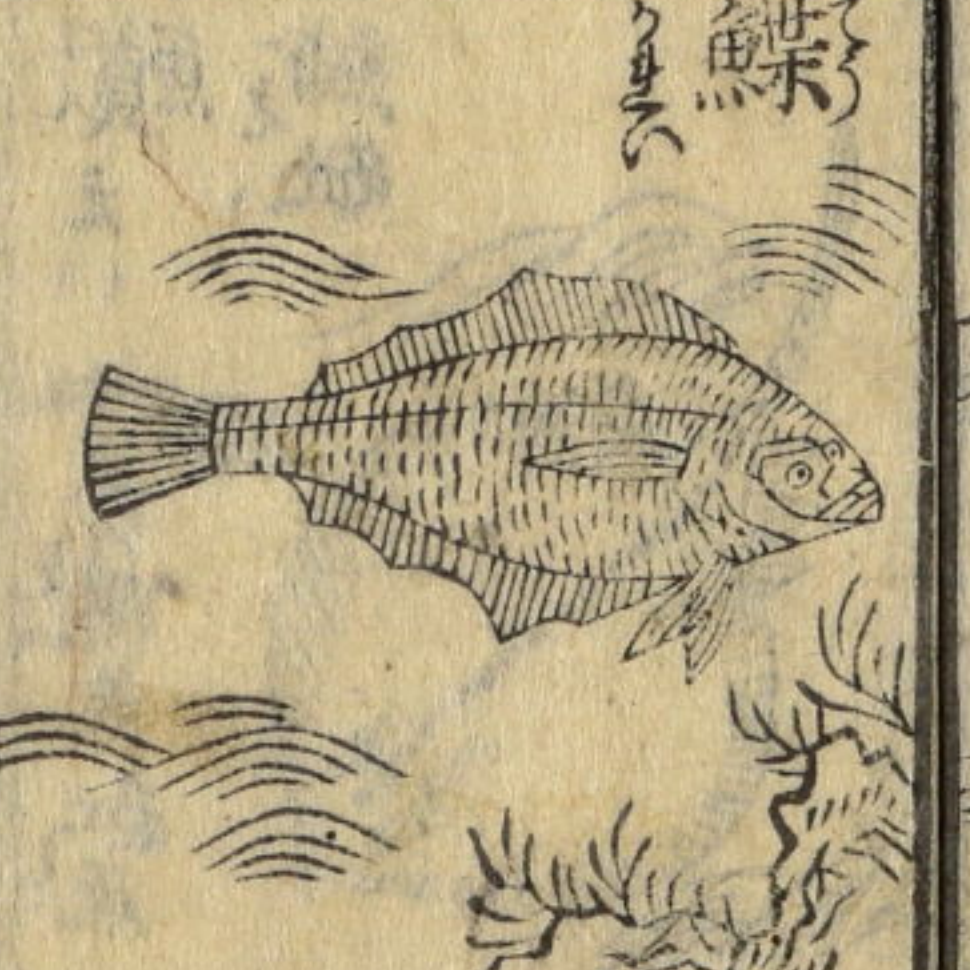
○鰈の王餘魚は
比目魚とをいふ
虚とかこの氣
かどすといふ食
それの氣とさす

鮪

○鮪の入りて
腹をちりあらし
氣をさすといふ鮪
魚同

鮪

○鮪の婦人えん
だんよらちたれ
て海をて一をさ
くられ産し
やうし文鮪同



○鮫の五臓とか
その筋骨を海
に脾胃と和せ
て食してはし
めく食してはし

鮫

○鮫の中とか
あひをさすとか
その食へりす
とを殺し脾胃
とて食してはし
めく食してはし

鮫

○鮫の虚勞とか
その脾胃とま
腸風汚血を治
し氣かすといふ
とて肥徒かとい

鮫

○鮫の肝平毒
ありて食をれ
て腹病とやま
針魚同

鮫

○鮫の食食をれ
て胃を冷し
とて食をれ
鮫魚同

鮫

○鮫の胃とあて
り人と益一痢と
やむとく食を
凡熱とさすか
とて食をれ



○鮮 中とわさ
少血とまう虚
とわさのいんご
の悪露と治す

鰻 さんごん

○鰻 刺とら
一茶と治し脚
氣腰腎おわさ
の湿痺と治し
陽ととまう

鰻 えの

○鰻 男子れ白
湯膏淋王莖の
つるを治す
毒あり人益
らと海鵜魚同

鰓 わさし
鰓 魚の頬乃
め骨あり俗
にえれとえらと
よ又かことと云

鰓 えん
鰓 魚の後中
にわりふえとよ
魚肝あり膠
つらとよと
よ

首言第十



鰻 さんごん



鰻 さんごん

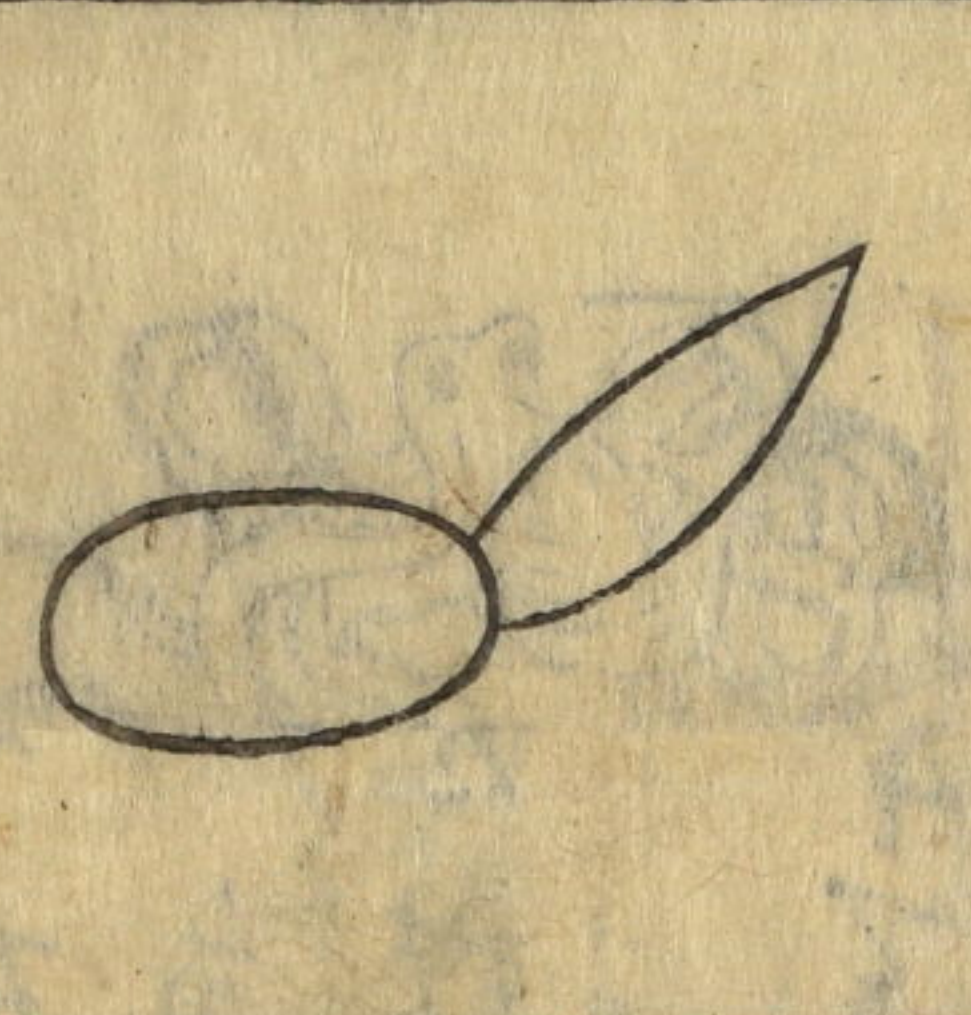


鰻 えい
鰻 鮎

鰓 わさし
かこ



鰓 えん
よん



○鰻 五臓を利
しと湿熱と
そけととと
そく食と守

鰻 さんごん

○鰻 中とあ
あをとまう
とととと
あ痔と治す

鰻 えん

○鰻 電症と
治し瘡癩子つ
けとと陽と
えんれと通
小兒ととわ
とととと

鱗 ろん
鱗 魚龍の
ろとあり鱗あり
との龍とれ長
鯉の大小とれ
十六鱗わり

鱗 いま
鱗 魚の脊と云
俗にひまといふ
とととと
魚の美味
あり冬に陽気
あり魚の表味
あり

十



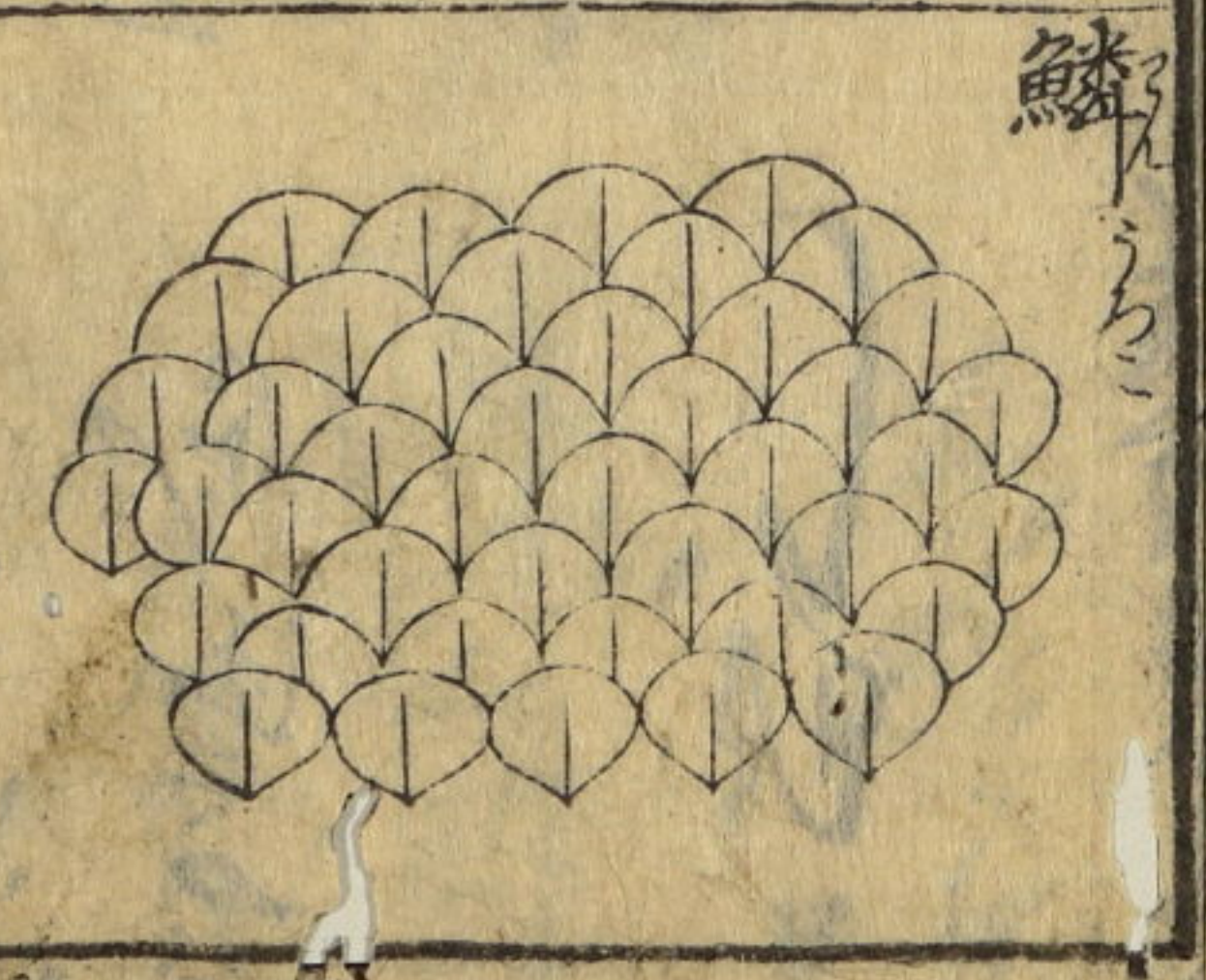
鰻 さんごん



鰻 さんごん



鰻 えん



鱗 ろん



鱗 いま

章拳

○章拳ハ血と
中ノハ氣と云々
冬ノハ氣と云々
脾胃ノハ氣と云々
ハクノハ氣と云々
章魚同石鮭ハ
ハクノハ氣と云々
貧血ノハ氣と云々

江鮭

○江鮭ハ胃と云々
そのハ捕ふと
ハ食ハレハ疾と
発シ又鮭魚云
又水鮭と云々

章拳



江鮭



鮭



海鰻

○海鰻ハ五疳濕
痺面目をくられ
脚生ハ氣に云々
くらハ女の水を云々
かより



土肉



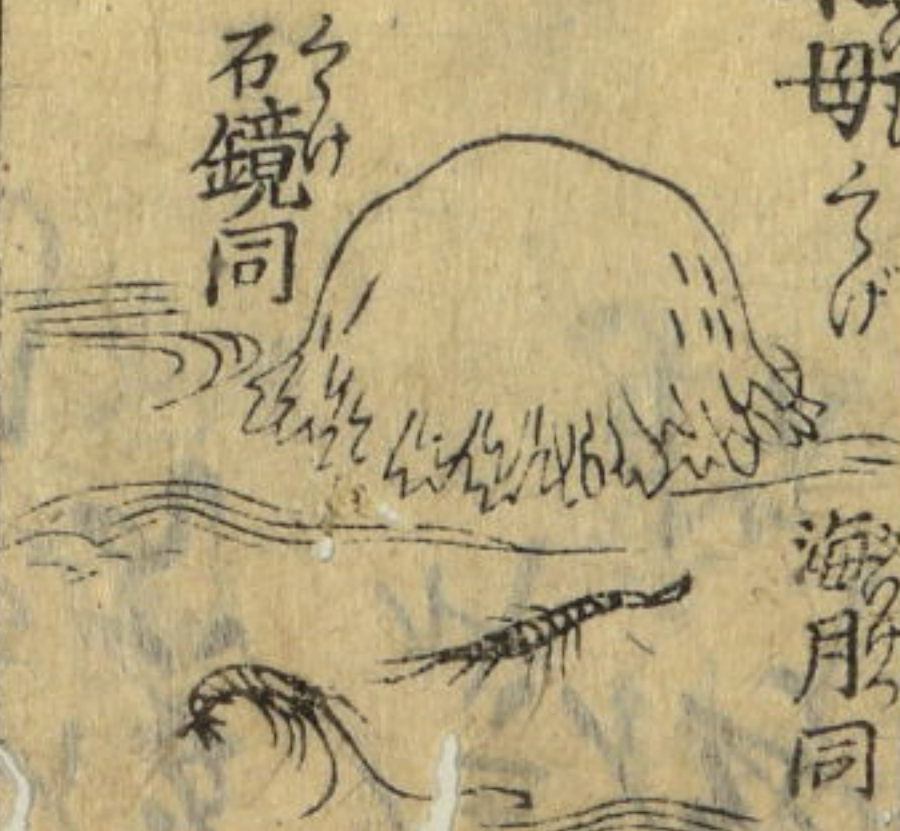
河狹

○河狹ハ血と云々
そのハ氣と云々
脚と云々
冬ノハ氣と云々
大子毒あり
水母



水母

○水母ハ婦人
の虚損積血と云々
け小兒の丹毒又
ハクノハ氣と云々
ハクノハ氣と云々
ハクノハ氣と云々
ハクノハ氣と云々



金魚

○金魚ハ藻の
ち生と甘平毒
あり之類と云々
銀魚もあり



杜父

○杜父ハ鮫魚と
ハ五と云々
脾胃と和と云々
杜文ハハクノハ氣と云々
土鮭土鮭土附同



青前

○青前魚ハ鮫
魚と云々
のハハクノハ氣と云々



蛭姑

○蛭姑ハ血と云々
ハクノハ氣と云々
産と云々



海牛ハ功効
ハコトツブツブ
ラセ

海馬

海馬ハ血氣の
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ

鮪ハ大ハ小
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ

醬蝦ハ大ハ小
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ

鱒ハ角頭魚
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ

麩條ハ中ハ小
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ

海牛



海馬



鮪



醬蝦



鱒



麩條



鮪ハ巧能
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ

小鯛

小鯛ハ體乃
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ

梭魚

梭魚ハ大ハ小
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ

魚子

魚子ハ目ノ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ

乾鰾

乾鰾ハ鰾ノ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ

魴

魴ハ鰾ノ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ
ハコトツブツブ

鮪



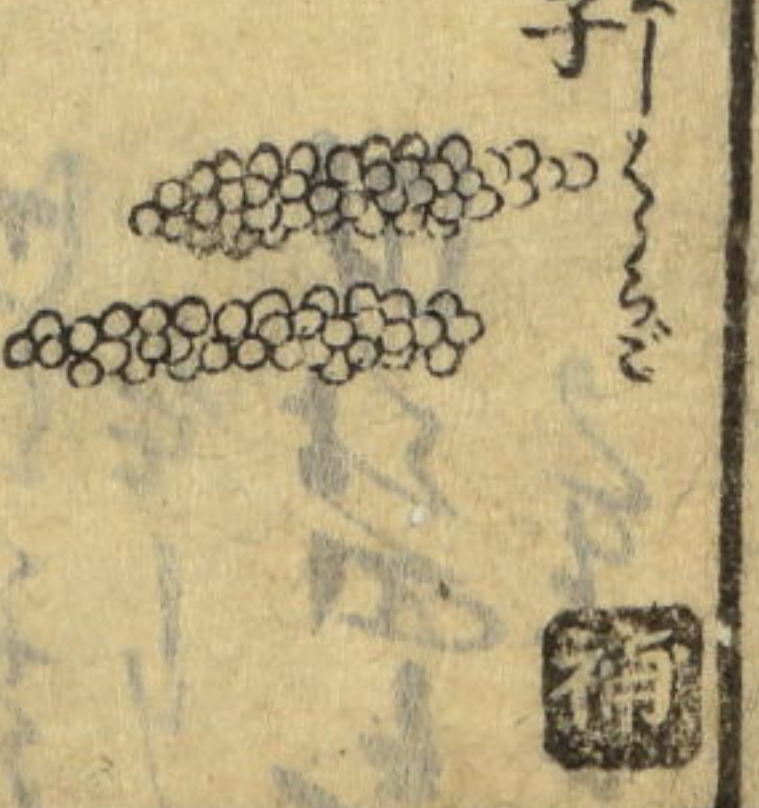
小鯛



梭魚



魚子



乾鰾



魴



鰯イサナの鳥賊ウツクシの
やうな能毒ノドク
のらに日ヒ産ウツクは
にえり

鰯イサナを

鰯イサナの虚勞ウツクシと
かこみ油アブラと
やうにぬり
とすべし

鰯イサナの
んそ又鰯イサナと
とま

鰯イサナ

補

鰯イサナ

補

鰯イサナ

補

鰯イサナの肝カと利リ
血ケツとがさあふ
肝カ胃イ実ミとす
のらとすべし

鰯イサナを

鰯イサナのまの鰯イサナ
のらとすべし
かあふり
とむありいづも
同物異名ドウブツイナミあり

鰯イサナを

鰯イサナの凡ソコとまり
酒サケとぬり煮ニて
かきん水腫スイシュと
治ナすべし

鰯イサナ

補

鰯イサナ

補

鰯イサナ

補

鰯イサナの胃イとわ
り中ナカと和ワを
繪殘魚エビノコ

繪殘魚エビノコの一名
玉餘魚タマノコとす
玉餘魚タマノコは
船中フネノナカに
つらて餘アトと
にすべし

鰯イサナの鰭ヒレと
猫ネコの病ヤマイと
いふ

鰯イサナ

補

繪殘魚エビノコ

補

鰯イサナ

補

鰯イサナの鰭ヒレと
いふ

鰯イサナを

鰯イサナの
子コかりは月ツキ又マタ
あづげんアヅゲンとす

鰯イサナを


鰯イサナの生ナマの肝カと
こころに餘アトの腫シュ胃イ
とすべし

鰯イサナ

補

鰯イサナ

補

鰯イサナ

補

烏賊 墨魚 鱈
魚 小史魚 並同
柔魚 又八のり
項管 又八のり

矢幹魚 ちとせ
矢幹魚 ちとせ
みく ちとせ ちとせ
たの ちとせ ちとせ
と ちとせ

鱈魚 ちとせ
鱈魚 ちとせ
う ちとせ ちとせ
ちとせ ちとせ ちとせ
ちとせ ちとせ ちとせ

烏賊 ちとせ



補

矢幹魚 ちとせ

補



鱈魚

補



鱈子 ちとせ
鱈子 ちとせ
鱈子 ちとせ
鱈子 ちとせ

鱈子 ちとせ

鱈子 ちとせ
鱈子 ちとせ
鱈子 ちとせ
鱈子 ちとせ



魚虎 ちとせ

補

魚虎 ちとせ
魚虎 ちとせ
魚虎 ちとせ
魚虎 ちとせ



人魚

補

人魚 ちとせ
人魚 ちとせ
人魚 ちとせ
人魚 ちとせ



終

國助郡平野村

今井太郎

